

食道扁平上皮癌の深達度と陽電子放出断層撮影における集積値との関連についての検討

## 1. 研究の対象

2013年4月から2023年3月までの期間、秋田大学医学部付属病院で表在型食道扁平上皮癌（ESCC）と診断され、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）が施行された症例のうち、F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography（FDG-PET）が行われた1000例を対象とします。

## 2. 研究目的・方法

ESDの適応とされている深達度のうち、粘膜筋板（MM）/粘膜下層浅層（SM1）の病変に対する内視鏡切除の推奨度は弱い推奨に留まり、内視鏡治療後にp（pathological）SM1と診断されれば外科切除または化学放射線療法が強く推奨されることとなります。内視鏡技術の進歩によりESCCの診断能は飛躍的に向上しましたが、深達度診断においてMMかSM1かを明確に区別することは依然困難であり、同深達度と診断された病変のうち粘膜下層中層（SM2）以深への浸潤症例が15-28%含まれていると報告されています。よって、MM/SM1における内視鏡診断能は十分でなく、内視鏡治療後に手術や化学放射線治療が追加となる可能性を十分に説明したうえで、より低侵襲な内視鏡的治療を行っております。術前診断においてはF-fluorodeoxyglucose positron emission tomography（FDG-PET）が深達度を含む病期診断において有用であり広く活用されておりますが、その最大標準化取り込み値（SUV-MAX）とESCCの深達度との関連を報告した論文は少ないのが現状です。そこで我々は、ESCCと診断し内視鏡治療が施行された病変において、FDG-PETのSUV-MAX値がMM以浅、SM1、SM2以深の鑑別に有用であるかを明らかにすることを目的としました。研究デザインは後ろ向き観察研究であり、秋田大学医学部付属病院の電子カルテを用いて匿名化したデータを抽出し、解析・検討を行います。

研究実施期間：研究実施許可日～2024年10月30日

利用を開始する予定日：2024年1月30日から。

## 3. 研究に用いる情報の種類

一般情報：

以下の項目について、電子カルテのデータベースから仮名加工情報を作成して抽出します。

- ・ 性別
- ・ 年齢
- ・ 身長・体重
- ・ 喫煙ステータス
- ・ 飲酒ステータス
- ・ 追加外科切除の有無
- ・ 内視鏡治療前の病変観察における拡大内視鏡所見
- ・ 内視鏡的粘膜下層剥離術後の病理組織学的所見（腫瘍径，深達度，組織型）
- ・ FDG-PET における SUV-MAX

#### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば，他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で，研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また，試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので，下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

秋田大学大学院医学系研究科

腫瘍制御医学系 消化器内科・神経内科学講座

研究責任者 児玉 崇

〒010-8543 秋田市本道1丁目1-1

電話番号：018-884-6104（消化器内科・神経内科学講座医局）

FAX 番号：018-836-2611（消化器内科・神経内科学講座医局）

-----以上